

ふるさと白老を学びたい、と町主催講座に集った受講修了者有志



# 「白老おもてなしガイドセンター」を旗揚げ

白老の魅力伝え、まち活性化に一役

モットーはガイド自ら楽しもう！



町は、ウポポイ開業効果の町内全域への波及を目指し、2019年度に全6回、20年度に3コース全19回の本格講座「おもてなしガイド人材育成講座」を開講。町の想定を上回る受講者数や年齢層、幅広い職業の多彩な町民が、専門家や関係者を講師に、町内のアイヌ文化や歴史、自然など観光スポット、ガイドとしての心構えや救急講習などについて熱心に学びました。2カ年で計61名が同講座を修了しています。



同センターは、20～70歳代の講座修了者17人が「せっかく学んだことを旅行者ガイドなどを通し伝えたり、白老での滞在時間を増やしたりすることに生かしたい」と設立しました。呼び掛け人の一人で同センター代表の岩城達己さんは「みんな『少しでもまちのためになるなら』という気持ちが強かったんじゃないかな」と設立のきっかけを話します。

役場職員だった岩城さんも「こういう活動でまちに恩返しできれば」と講座に参加、センター立ち上げに参画しました。そんな熱心な岩城さんたちですが「肩肘張らず背伸びせず、まずは会員自らが楽しいと感じる会にしたい」がモットーのようです。

ガイドエリアは20年度講座にもあったポロト自然休養林や駅前商店街、ヨコスト湿原などを想定していますが、「竹浦や虎杖浜などにも順次拡大していきたい」（岩城代表）と考えています。同センター主催の講座や勉強会の開催も予定していますが、現在はコロナ禍で活動もままなりません。先日も予定していた元陣屋資料館友の会との交流も難しくなった、と言います。「7月以降でも本格活動できたらいいね」と意欲をためつつ、コロナ禍の収束に期待しています。

## 知っておこう アイヌ文化

## トウレプ

イランカラプテ。チキサニでは6月26日(土)、ミニ体験「オオウバユリ採取加工体験」を開催します。オオウバユリは、アイヌ文化の中でもギョウジャニンニクと並んで「ハルイッケウ（食料の背骨：食料の中心になるもの）」と呼ばれ、アイヌ民族の食文化を支えていた植物です。町内の野山でも夏になると、高く伸びた茎にいくつもの緑がかった白色のオオウバユリの花が咲いているのを目にすることがあります。しかし、アイヌ民族が食料としたのは白い花ではなく、地下のユリ根（鱗茎）で、トウレプと呼び、デンプンを取り出して、さらに残った繊維を発酵・乾燥させることでオントウレプアカムという保存食にしたのです。オオウバユリは種から芽を出し、年々、葉の数を増やしながら地下のトウレプも大きく成長して、約7年ほどようやく花を咲かせ、一生を終えます。成長して、茎が一本立ちし、花を咲かせるオオウバユリは種子を残して、子孫を残す大切な役割を果たしますし、そもそも根にデンプンは含まれていないので、採取しても意味がありません。花を咲かせる前年のトウレプは大きく、最もデンプンが含まれているので、葉の枚数が多いものを選んで採取します。オオウバユリの採取から加工までをぜひ体験してみませんか？皆さんの参加をお待ちしております。



昨年6月開催でのトウレプ採取体験の様子

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301